

第3編 第3次出雲市食育推進計画

第2章 中間評価の概要

1 中間評価の目的

第3次食育推進計画は、平成30年度から令和9年度までの10年間を計画期間としています。その中間年（令和4年度）に、社会・経済情勢等を踏まえ、指標項目の達成状況や取組の進捗状況の評価することにより、本計画の適正性や見直しの必要性を判断するとともに、その結果を計画の残り期間の施策・事業展開に反映させていくことを目的としています。

2 評価方法

令和3年度に実施した「出雲市健康づくり・食育に関するアンケート結果」のほか、関連事業等の実績等により、目標指標における達成状況についての判定を下記の表の基準により5段階評価を行いました。

| 判定区分 | 判定基準 |
|------|---------------------------------------|
| ◎ | 目標値を達成している |
| ○ | 目標値には達成していないが、策定当初より改善傾向にある（改善率50%以上） |
| △ | 策定当初と変わらない 改善がみられない（改善率±49%以内） |
| × | 策定当初より悪化している（改善率-50%以上） |
| — | 判定できない 把握できない |

$$\text{改善率} = (\text{中間評価値} - \text{ベースライン値}) / (\text{目標値} - \text{ベースライン値}) \times 100$$

3 評価結果

21項目の指標のうち、「◎達成」は6項目、「○改善」は2項目で全体の50%で改善がみられました。

朝食、野菜摂取において悪化しており、これらは後半の取組によって改善していく必要があります。

《目標指標の判定結果一覧》

| 判定区分 | ◎ 達成 | ○ 改善 | △ 変化なし | × 悪化 | — 判定不能 | 合計 |
|------|---------|---------|-----------|---------|-----------|----|
| 項目数 | 6 | 2 | 5 | 3 | 5 | 21 |

第3次 出雲市食育のまちづくり推進計画の成果指標と現状

重点的な取組目標

市・生涯にわたる食を通じた心身の健康づくり・食文化の継承とコミュニケーションの充実
 ・食の安全・安心 ・地産地消の推進

市民・朝ごはんを元気に1日をはじめましょう ・家族そろって楽しく食事をしましょう
 ・栄養バランスが優れた日本型食生活を実践しましょう・食の安全・安心に関心を持ちましょう
 ・出雲の食材をおいしく食べましょう ・出雲の食文化を伝えましょう

| 項目 | | 平成28年 (2016)数値 | 目標値 | 令和3年 (2022)数値 | 評価 |
|---|----------|-------------------|------|------------------|----|
| 食育に関心を持っている市民の割合の増加 | | 69.1% | 80% | 71.7% | △ |
| 朝食を食べる市民の割合の増加 ※小学生、中学生、20歳代男性、20歳代女性の数値は、1～5日食べない人を含む | 3歳児 (R2) | 95.6% | 100% | 96.6% | △ |
| | 小学生 | 99.5% | 100% | 99.2% | × |
| | 中学生 | 99.3% | 100% | 98.8% | × |
| | 20歳代男性 | 84.5% | 90% | 87.5% | ○ |
| | 20歳代女性 | 87.5% | 90% | 91.3% | ◎ |
| 主食、主菜、副菜をそろえて食べる市民の割合の増加 | | 66.7% | 75% | 72.9% | ○ |
| 緑黄色野菜を1日2回以上食べる市民の割合の増加 | | 39.0% | 50% | 43.7% | △ |
| よく噛んで食べることを意識している市民の割合の増加 | | 50.3% | 55% | 58.2% | ◎ |
| 出雲産や県内産食材の使用を心がけている市民の割合の増加 | | 37.2% | 増加 | 39.6% | ◎ |
| 食材購入時に生産地や成分表示を確認する市民の割合の増加 | | 57.7% | 増加 | 57.6% | △ |
| 出雲の郷土料理や伝統料理を知っている市民の割合の増加 | | 27.8% | 増加 | 54.8% | ◎ |
| 食事をともにする家族や友人がいる市民の割合の増加 | | 86.6% | 増加 | 88.3% | ◎ |
| 野菜を1日5皿以上食べる市民の割合の増加 | | 6.0% | 増加 | 5.4% | × |
| 日常生活で塩分をとりすぎないように気をつけている市民の増加 | | 30.8% | 50% | 33.5% | △ |

| | | | | | |
|-------------------------------------|-------|-------|------|-------|---|
| 食のボランティアの人数の増加 | | 208 人 | 増加 | 209 人 | ◎ |
| ＼新指標！／ 毎日朝食を食べる市民の割合の増加 | 3 歳児 | — | 100% | 96.6% | — |
| | 小学生 | — | 100% | 88.9% | — |
| | 中学生 | — | 100% | 89.4% | — |
| | 20 歳代 | — | 90% | 70.0% | — |
| ＼新指標！／ 食品ロス軽減のために気を付けている市民の割合の増加 | | — | 増加 | 83.3% | — |

(グレー色付はアンケート結果があるもの)

アンケート項目 (目標指標にはない)

- ・夕食後のお菓子や夜食などを食べますか
- ・食事は決まった時刻にとりますか
- ・バランスよく食べますか
- ・脂分をとり過ぎないようにしていますか
- ・甘いお菓子を毎日食べていますか
- ・砂糖入りのコーヒーや炭酸飲料等を毎日飲んでいますか
- ・調理済み食品やインスタント食品をよく利用しますか
- ・外食することが多いですか
- ・食事や栄養について必要な情報を得ていますか
- ・地元でとれた農畜産物や海産物に関心がありますか
- ・食品ロス軽減のために気をつけていますか →新指標へ追加
- ・農畜産物や海産物を購入するときに重視することは何ですか

市の主な取組

- ・朝食の大切さについて、啓発チラシを作成し各地区や事業、乳幼児健診等で啓発を行いました。
- ・妊娠届出者全員に、妊娠中の食に関するパンフレットを用いて、妊娠中の食の大切さについての啓発を行いました。
- ・離乳食については、4 か月児健康診査時に全員に離乳食指導を実施しました。また、離乳食教室を離乳の開始期・2～3 回食の頃・完了期別に月 1 回開催しました。
- ・乳幼児健康診査や妊婦・乳幼児健康相談、各種教室等において栄養相談を実施しました。
- ・広報いずも「まいがな出雲！」への啓発記事を農業振興課・水産振興課と連携して掲載し、情報発信を行いました。
- ・「我が家の自慢！おすすめレシピ」では、一般からレシピを募集し、ホームページへ掲載しました。
- ・塩分チェックシートを活用し、減塩の意識付け、実態把握、各地区等での減塩やバランスの良

い食事に関する啓発を行いました。

- 地域における食育の推進を、食のボランティアと健康づくり推進員の協働により実施しました。
- 各地域で、食のボランティアによる伝統料理の継承を行いました。
- 地域での食育推進を担う「食のボランティア」育成講座を開催しました。
- 高齢者を対象に、低栄養予防のチラシを作成し、各地区や事業等で活用し啓発を行いました。
- 給食試食会、お魚クッキング等の食育講座を、関係機関と連携した開催しました。
- 令和3年度食育推進ネットワーク会議での取組目標を「よく噛んで食べよう！」と設定し、関係機関・団体での取組の推進、連携して啓発を実施しています。

現状と課題

*朝食の摂取について

- 「毎日食べる」人は89.0%で、H28年と比較して2.2%増加しました。
- 20代の「毎日食べる」割合は70.0%で、H28年と比較すると4.4%改善していましたが、他の年代と比べると依然として低い状況です。
20代の「ほとんど食べない」と回答した人を男女別にみると、男性12.5%、女性8.7%と改善傾向にありましたが、30代男性では22.2%と最も高くなっています。
- 小学生、中学生においては、H28年と比較して悪化していました。
- 朝食を食べている人の割合は改善傾向にありますが、内容をみると、30代40代50代で「主食・主菜・副菜」を揃えて食べている人の割合が減少しており、若い世代への啓発にあわせ、朝食の内容についても啓発が必要です。

*野菜の摂取量について

- どの年代とも「1日1~2皿」が最も多く、全体では54.9%で、H28年と比較すると1.1%改善しました。
- 「1日5皿以上」食べている人の割合は5.4%で、H28年と比較すると0.6%悪化していますが、「ほとんど食べない」人は4.0%で、H28年と比較すると0.6%悪化していますが、特に20代においてはH28年と比較して2.1%改善しました。
- 年代があがるにつれて、「1日3~4皿」食べている人割合が高く、野菜の摂取率が多いことがわかります。

*よく噛んで食べることについて、「よく噛んで食べることを意識している」割合は58.2%で、H28年度と比較して7.9%改善し、目標値である55%を達成しました。特に、60代68.8%、70代68.7%と意識している割合が高い傾向にあります。

*地元産食材の使用を心掛けている市民の割合は39.6%で、H28年と比較して2.4%増加しました。

*食材購入時に生産地や成分表示を確認する市民の割合は57.6%で、H28年と比較して0.1%減少しました。

*郷土料理や伝統料理を知っている市民の割合は54.8%で、H28年と比較して27.0%と大幅に増加しました。

*食事をともにする家族や友人がいる市民の割合は88.3%で、H28年と比較して1.7%増加しました。

- 「いない」人は、20代が15.7%、70代が18.9%と他の年代と比べて、多くなっています。
- *塩分をとりすぎないように気をつけている市民の割合は33.5%で、増加傾向にあり、「いつも気を付けている」「時々気を付けている」を合わせると、86.5%ですが、「気を付けていない」人のは20代で27.1%、30代で22.9%との若い年代で割合が多くなっています。
 - *食品ロス軽減のために気を付けている市民の割合は、83.3%と多くの市民が気を付けていることがわかりました。20代で67.1%、60代で89.3%、70代で87.3%と年代によって意識に差がありました。

今後の方向性

- ・朝食の摂取について、特に若い世代への啓発に力を入れて取り組みます。また、全世代へ向けでは、朝食の内容についてバランスよく食べることの大切さを継続して啓発していきます。
- ・ホームページ、広報いずも等を活用し、広く情報発信を行います。
- ・食生活に関する理解と実践に向け、若い世代、働き盛り世代へ向けたアプローチ方法を工夫して啓発を行います。
- ・妊娠中の食の大切さについて、妊娠届出時に継続して啓発を行います。
- ・乳幼児健康診査および妊婦・乳幼児健康相談、各種教室等において、栄養相談対応を行います。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも必要な情報提供の手段の工夫、感染症対策を講じながらの健康教室・啓発活動の取組を勧めていきます。
- ・地域への啓発については、食のボランティアや健康づくり推進員と協働で実施します。
- ・食のボランティア育成講座を継続して実施し、会員の増加や地域への知識等の普及を図ります。
- ・食生活に関する理解と実践に向け、男性や若い世代へ向けたアプローチを工夫して啓発を行います。
- ・高齢者の低栄養予防に関する取組を、継続して実施します。
- ・関係機関、団体と連携し、継続して地域等での啓発を推進していきます。
- ・SDGsを意識した取組を他課と連携しながら推進します